

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

|                     |   |            |
|---------------------|---|------------|
| 委員会名                | 建築教育技術小委員会  | 主 査 名：戸部栄一 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会) | 建築教育委員会   | 委員長名：西谷 章  |
| 設 置 期 間             | 2003 年 4 月 ～ 2007 年 3 月   |            |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画  | <p>当小委員会は、2003 年度の建築教育委員会の改組に伴って設置された委員会であり、その設置目的は建築教育にかかわる教育技術分野を主な研究領域とする小委員会である。</p> <p>このために、まず研究データを集め、その分析を通して教育技術や教育方法に関する研究の活性化を図ることを企図している。</p> <p>2004 年度には、全国建築系大学のカリキュラムとシラバスを収集し、2005 年度以降には小委員会メンバーの関心に応じたグルーピングを行い、各分野・関心ごとの分析を行う予定である。</p> <p>さらにこの成果は 2005 年度以降、学会大会研究懇談会等で発表する予定である。</p> |            |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))  | 戸部栄一(相山女学園大学)、小野田泰明(東北大学)、角本邦久(関東職業能力開発大学校)、川島洋一(福井工業大学)、川戸敏雄(近畿大学)、小谷部育子(日本女子大学)、桜井慎一(日本大学)、篠部裕(呉工業専門学校)、西谷章(早稲田大学)、初見学(東京理科大学)、益子義弘(東京藝術大学)、三原斉(ものづくり大学)、連健夫(連健夫建築研究室)、山田由紀子(明治大学)  |            |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)  | なし  |            |
| 2004 年度予算           | 100,000 円   |            |

| 項 目                   | 自己評価  |
|-----------------------|---|
| 委員会活動状況<br>(開催日・参加人数) | 2004 年 8 月 30 日、2005 年 2 月 18 日   |
| 得られた成果                | <p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>2004 年度は、建築教育研究小委員会とともに、全国の建築系大学のカリキュラムとシラバスを収集し、これをもとに何度かの討論を行ってきた。同時に、「21 世紀計画系教育研究特別委員会」の竹下委員(九州大学)とともに計画系教育の実態分析を行った。この中で、新しいタイプのカリキュラムを組む大学が増加しつつあることがわかってきた。こうした試みには、①座学と演習・実習を総合化するもの、②全教員が参加する科目の設置、③学外実習等を単位化するもの、などが見られ、新しい動きとなっているようである。</p> <p>また、全国建築系大学のカリキュラムの整理によって、大学別のカリキュラムの特徴、設計教育に対する考え方、科目の学年配置などの構成についての一般的傾向と新しい試みがわかりつつある。これらを元に、2005 年度にはさらに個別調査を行い、学会大会研究懇談会において発表を行う予定である。</p> |
|                       | 委員会 HP アドレス：  |
| 目標の達成度                | (当初の活動計画と得られた成果との関係)  |

|            |   |
|------------|---|
|            | <p>調査研究はおおむね、当初計画どおりに進行しているといえる。しかしながら、研究費が大幅に削減されたために、地方からの委員が集まりにくくなり、小委員会の会議自体は低調になりつつある。電子メールを用いた意見交換は活発になっているが、委員が集まりにくいという状況は目的達成に大きな足かせとなっている。</p> |
| その他評価すべき事項 |   |